

平成29年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業

(Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)

事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【愛知県豊川市】
平成29年度に実施した取組の内容及び成果と課題
1. 事業の実施体制 不就学の外国人の子供に対する日本語・教科指導、学習習慣の確保に係る指導のための教室の開設 教室名:豊川市こぎつね教室(平成24年11月に常設の教室として設置)。 場 所:豊川市諏訪3-133 豊川市プリオビル 5F 開室期間:土、日及び年末年始を除く、月曜日から金曜日 職 員:コーディネーター兼指導員1名 日本語指導員2名 送迎運転手兼指導補助1名(送迎のない時間は指導補助。) ボランティア:約6名(1日1名程度) 対 象:外国にルーツのある小中学校相当の子供・小学校入学まで6箇月以内の子供に対して日本語指導及び教科指導を実施。 在籍者数:51名(今年度入室36名、昨年度からの継続15名) 2. 具体の取組内容 教室には常時15名～20名程の児童・生徒が在籍。基本的には小学生と中学生、小学校入学前の子供のグループに分け、それぞれのグループで1名の指導員が授業を行いました。無償ボランティアが指導補助に入る場合に、必要に応じて個別指導も行いました。授業内容としては、小学生や小学校入学前の子供らは初期の日本語指導が主であり、平仮名・カタカナの読み書き、日常で使用する語彙集を指導計画に沿って進めました。中学生らは、それより発展し、日本語文法の理解や運用、日常会話の習得に力を入れました。 地域社会との交流としては、地元農家の協力を得て、6月のさつまいもの苗植えから10月下旬の収穫、焼きいも体験等を行い、貴重な体験となりました。 12月には、保護者や地域の方等呼び、成果発表会、お楽しみ会を行い、教室の活動内容の周知を図りました。 その他には、アダプトプログラムとして、定期的に近くの豊川公園のゴミ拾いなどの清掃活動を行ったり、4月のお花見、7月の七夕、2月の節分等、日本の行事に関する活動を行ったりしました。

3. 成果と課題

成果として、今年度在籍者数51名(昨年度からの継続は15名)のうち、教室入室時に不就学であった児童生徒を全員市内の小中学校に入学させることができました(平成30年4月入学予定の児童生徒も含む)。

入学した児童生徒らは、必要に応じて継続して午後からは教室で学ばせ、学校生活で適応ができるようになるまで指導を行いました。入学後は、必要に応じて学校に訪問や連絡を取るなどし、日本語指導だけでなく、気持ちの面でもフォローできるよう配慮しました。結果、教室卒室後、保護者の都合で市外へ転校等した者を除いては、児童生徒らは各学校で適応し、通学を続けています。

学習成果では、入室時に日本語が全く分からない、知らないというゼロレベルだった児童生徒は在籍者51名中29名でした。

児童生徒らの学年や個人差はあるものの、平仮名・片仮名の読み書きから漢字、簡単な日常会話へと学習を進めていくことができ、ほとんどの児童生徒が6箇月の期間内に卒室することができました。また、各学校から多くの外国人児童生徒が計算が苦手であるという声を耳にすることから、教室の休憩時間10分のうちの5分ほどを活用し、各児童生徒のレベルにあった計算問題に取り組む「さんすうの時間」を実施しました。効果は着実に出ており、各学校にも好評でした。少しでも早く学校生活に順応できるよう、今後も続けていきたいと考えています。

今年度も昨年度に引き続き、教室に通う外国人の児童生徒数が増加傾向にあり、新しく入国してくる子供が増えています。また、今年度特に顕著だったのは、教室に通う子供の低年齢化が進んだことで、ほとんどが小学校低学年か小学校入学前の児童でした。

課題としては、上記の児童生徒は、日本語が全く話せないかほとんど話すことができないゼロレベルの子がほとんどであり、来年度もこの傾向が続いていくことが予想されるため、より一層教育委員会や学校、保護者と連絡調整を密にし、より効率良く、効果的な教室運営を行う必要があります。

4. その他(今後の取組等)

前述の課題に対して、昨年度に引き続きコーディネーターが教育委員会で行われる市内小中学校の外国人指導助手担当者会議等に出席したり、保護者と面談をしたりして、児童生徒の情報共有の強化を図っています。また、プレスクールなどの低年齢の子供が多くなったことに対しては、学校から低学年用の机といすを借りて教室内の配置を変え、プレスクールコーナーを設け、一人の指導者でより多くの子供を指導できるよう工夫しました。

今後の取組予定としては、入室する児童生徒の語学力や計算力をチェックするテストを作成して入室前に実施し、児童生徒の入室後の指導計画等を事前に立て、より一層きめ細かな指導に結びつけられるよう考えています。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。)